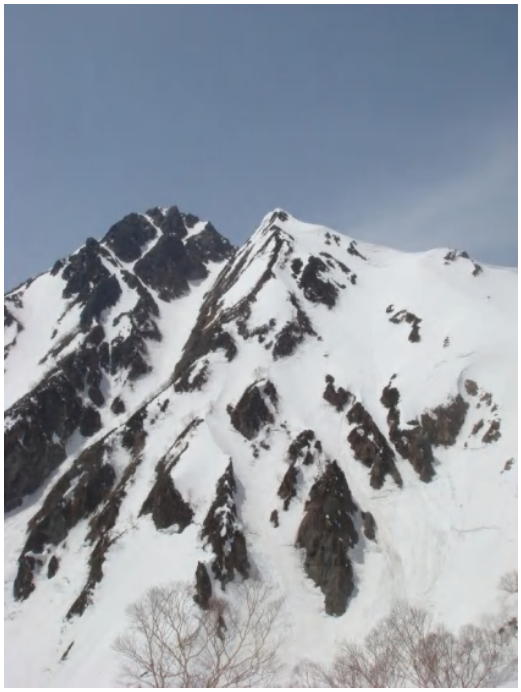
五竜G0稜

日程　2011年5月3日～4日
L塚原、ほか1名

プロローグ　五竜岳東面に目を向け始めたのは、今から１７，８年前になる。当時先輩会員は岩壁登ハンを志向する者が主で、自立した山行を目指していた私はそんなに難しくないミックス壁がある五竜に目を付けた。５月の連休に一人で下見に行ったのが五竜との出会いであった。実際に登ったのは、新しい会に移ってからであった。Ｇ２稜を登ハンした。



３日、８時２０分ごろのテレキャビンに乗り夏道を通り遠見尾根に登った。ゴールデンウィーク前半の人出は今一つ。トレースも思ったほどない。天気は曇りで、時折日差しがある。３時間程歩くと中遠見に着いた。１２月にスノウシューのトレーニングに来た最終地点だ。ここからスキー場方面に目を向けると、２０～３０人の登山者が見える。この辺りまでくると鹿島槍の北壁がよく見える。１２月に来た時は・ヒマラヤ襞がくっきりと見え迫力があったが、今はそれ程でもない。目指す西遠見は、目と鼻の先に見えるのだが。それでも１４時頃に着けばいいので気が楽だ。

だらだらの登りをたらたら歩いていると、多くの登山者に追い越されていく。中には、こんな装備でと、思う人もいる。これだから５月は怖い。途中我々の格好を見て話し掛けてきた男女のパーティーがいた。北尾根を登ると行っていた。あっという間に見えなくなってしまった。それでも１２時半には西遠見に着いた。

雪面を削り、雪のブロックを積み上げていく。女房と２人で４～５人用テント。かなりのスペースが必要だ。なのにスコップは１個。テントの３分の２が隠れる所でブロック積みを断念した。結果的に夜中の強風をまともに受けることになった。

テントを張り終え、Ｇ０稜の下見に出かけた。下降地点と取り付くルートの見定めだが、白馬の雪崩が気に懸かる。テントに戻ると、一人の男性が話し掛けてきた。Ａルンゼをスキーするそうだ。Ｇ０稜からＡルンゼには雪は落とせない事を肝に銘じた。

テントに入りビールやワインを飲んでいると眠くなってきた。少し遅いお昼寝だ。

食事はキムチ鍋、１８時には食事を終えた。夕方から吹き始めた風は徐々に強くなってくる。風の方向もまちまちでテントをバタバタと揺らす、一晩中。

４日、4時起床６時出発予定。食事を終え、準備をしていると、７～８人の登ハングループが通って行く。天気は黒い雲が空を覆い風は相変わらず強い。とりあえず様子見で待機することにした。

撤退も考慮し６時半頃テントを出た。当初は白岳寄りの白岳沢の雪面を登るつもりだったが、雪崩の事を考えＡ沢との出合いの末端から取り付くことにした。

出合いに向け下っていると、先行するパーティーが見えた。ザイルを出しているが、後続がなかなか動かない。どうも２人だけの様だ。白岳沢はデブリでいっぱい。雪面を登り末端に取り付いた。途中から先行パーティーのトレースをつかわせてもらい、彼らに追いついた。女房を先行させノーザイルで登ってもらう。２月の御岳とは違い唯歩けば良いのではないので観察させてもらう。ルート選定に迷っているようだ。シュルンドが大きく口をあけている。右寄りのブリッジから通過するよう伝えた。この上の雪面でも先行パーティーがザイルを出している。彼らの脇を通り先行することにした。トップを代わる。白岳寄りに雪庇が出ているので、余り寄りすぎないよう這い松を掴みながら登っていく。

一旦は雪の余り残っていない所を登ったが、ブッシュに足を取られ時間が掛かるので雪の残っている白岳寄りの雪面を登ることにした。シュルンドが多いのが不安だ。徐々に稜が狭まってくる。傾斜も強くなって、バイルと灌木を掴みながらの登行となる。３０，４０分登り続けると稜線が近くなってくる。

最後の登りだ。ナイフリッッジの雪稜のうえが灌木のある岩、そしてその上は6メーター位の雪壁があり雪庇となって稜線に合流している。白岳沢寄りに１５メーター程トラバースすれば登りやすいが、１００メーターの落差のある雪面のトラバースなのだが。ここでトップを女房に変わった。

トラバースを避け直登し岩を登り切る。その上の雪壁の手前で、又トップを代わる。雪を落としながら登る。雪庇をすべて落とし最上部の雪面にピッケル、バイルが刺さるのを確認し這いずり上がった。ザイルを出し女房が上がってきた。登ハン時間４時間。１１時少し前。

ここから夏道に下り急いでテン場に戻った。テントを撤収しひたすら歩き車には３時半頃着いた。途中大遠見にテントが何張りもありました。ここの方が楽かもとおもいました。今後登る人の為に。